



2017.11
第90号

発行所：NPO法人瀬田川リバプレ隊事務局 〒520-0844 大津市国分1丁目36-4
TEL&FAX 077-533-0037 URL：http://www.animateur.co.jp/riverplay/



第13回「河川を愛する市民会議」

10月29日(日)
参加者 リバプレ隊員 合計41名
一般参加者

「美しい故郷の河川をとり戻すには
いま私たちに何が出来るか」

毎年同じメインテーマで実施しており、「2017年は琵琶湖の水源地、山は
今どうなっているか」昨年「よみがえれマザーレイク」をテーマに「セ
タジミの復活がびわ湖を救う」今
回は「びわ湖アユは何処へ」をテー
マにびわ湖の現状及びアユの現状と
環境団体の活動報告と説明があり、
コーディネーターの井阪尚司氏によ
り、開催しました。

コーディネーター 井阪 尚司氏

元県環境支援センター長

話題提供者

ぽぽっぽくらぶ

山口果歩&梨歩&歩佳

「びわ湖を中心としたびわ湖・淀川
水系でのエコ活動について」

活動報告」

藤岡 康弘氏

びわ湖の森の生き物研究会事務局長

演題

「びわ湖の漁業における
アユの現状」

一瀬 論氏

滋賀県琵琶湖環境科学センター
環境監視部門 学芸員

演題

「びわ湖のプラシクトンの今」

山口 恵氏

ケアシエル株式会社

演題

「水の浄化剤としての貝殻」

台風22号が接近中で開催が心配
でしたが、荒れ模様の中、10時司会
者リバプレ隊 伊藤副理事長の開催
挨拶、井阪氏にバトンタッチ井阪尚
司氏は第一回から進行コーディネー
ターを務めて頂いています。

最初に井阪氏よりプレゼン挨拶と
して13回目を迎えた河川を愛する
市民会議について経緯の説明があり

ました。琵琶湖・河川についてい
ろいろな切口から考えてみよう、
琵琶湖は今、どうなっているの
か？水質は、ゴミ問題は、数年前か
らは琵琶湖周辺に目を向けて、水源
の元、山の獣害について、また暮
見た滋賀県の環境について、また暮
らし文化と琵琶湖の関係に於ける継
承について、山間部に於ける伝統文
化の継承生活について、昨年からは
琵琶湖に戻って考えようと、昨年は
シジミの減少について、湖底は、外
来水生植物の繁茂、プラシクトンの
変化等について漁業従事者、滋賀県
琵琶湖再生課、水産課専門職員等の
説明を受け討議しました。今回は、
アユに焦点を置き、琵琶湖とアユの
関係及び貝殻を活用した水の浄化剤
の開発等、各発表を頂き、皆さまと
討議を実施致しました。

第一部
発表、講演

小学生の頃よりこどもラムサール
参加発表等、毎年参加発表頂いてい
た 山本賢樹氏は今年から栗東高校
の教師となられ、今日は学生の引率
で欠席され、今回は大阪で活躍中の
三姉妹の活動発表を頂きました。

ぽぽっぽくらぶ

果歩&梨歩&歩佳

発表、講演

小学生の頃よりこどもラムサール
参加発表等、毎年参加発表頂いてい
た 山本賢樹氏は今年から栗東高校
の教師となられ、今日は学生の引率
で欠席され、今回は大阪で活躍中の
三姉妹の活動発表を頂きました。

ぽぽっぽくらぶ

果歩&梨歩&歩佳

発表、講演

小学生の頃よりこどもラムサール
参加発表等、毎年参加発表頂いてい
た 山本賢樹氏は今年から栗東高校
の教師となられ、今日は学生の引率
で欠席され、今回は大阪で活躍中の
三姉妹の活動発表を頂きました。

ぽぽっぽくらぶ

果歩&梨歩&歩佳

発表、講演

「びわ湖を中心としたびわ湖・淀川水系でのエコ活動について」

活動報告

ぽぽっぽくらぶは大阪守口市在住の三姉妹で、大阪を主に活動中で琵琶湖等の環境活動に参加しています。果歩、梨歩は大学1年生で、歩佳は中学1年生です。私たちは小学4年生より「ぽぽっぽ新聞」を発行しています。ぽぽっぽくらぶのネーミングは果歩、梨歩、歩佳のぽの3ばかりです。私たち小学4年生から、水辺や山に出かけ活動を行った内容を新聞として発行しています。現在は1135号となりました。琵琶湖・淀川水系でのエコ活動について発表します。滋賀県蒲生野考現倶楽部で水源の森で環境活動、外来魚釣りに参加してブラックバスのから揚げを食べ美味しかったです。環境に優しいコメ作りを行い沢山のお米が収穫出来ました。私達は滋賀県の水辺で水質、生き物、植物、野鳥等いろいろな調査活動、ヨシ刈りに参加してヨシについて学び、大和川下りをしたり、淀川災害学習に参加して非常食の食体験をして、大阪湾、大和川、琵琶湖周辺でのゴミ回収も行い、大阪湾での「あおさ」について研究を発表して多くの賞を受賞しました。環境問題で大切な事は、ゴミと外来種、問題ですが、一人の活動では限

りがあります。そこで多くの人達に参加して頂けるように、環境保全活動の発表活動を行っています。よろしくお願ひ致します。

ぽぽっぽくらぶの発表後に参加フロアーの方々より感想等意見交換を行いました。



藤岡 康弘氏

琵琶湖の漁業おけるアユの現状

今年には琵琶湖のアユ漁獲量が減少しました。そこには何が原因があるのか？琵琶湖の資源アユについての研究されている、元県水産試験場の藤岡氏にお願い致します。

講演内容概要
アユの生体

アユの分類 サケ目―キュウリウオ亜目―アユ科―アユ属―アユに分類される。琵琶湖のアユの特徴は8月から、11月に河川に遡上して産卵し、普通のアユより2カ月早く、卵は小さく、縄張り性が強い。湖で生活史の大半を過ごす。琵琶湖のアユは大きくならないが河川に遡上、放流すると大きくなる。餌は岩に付着したコケを食べる。琵琶湖のアユは4集団分類仮説がある。河川に遡上する時期により分類される。アユの耳石は年輪ような模様を調べると、何時に生まれたかが解る。アユ漁にはエリ漁、追いで網漁、沖すくい網漁、河川に遡上するアユを魚道に捕獲仕掛けで捕獲、四つ手網漁がある。アユの漁獲量は1991年から2000年頃は年間2000トをピークに右肩下がり年500ト以下となる。29年度は28年の産卵が遅く少なく、成長が遅く春の漁獲量は例年の1割程度となった。アユの産卵河川は姉川、石田川、知内川の3河川で70%を占める。琵琶湖産アユの課題

現在の漁獲量は明治期の500ト以下までに減少した。産卵場所がなく一部の河川に集中、産卵時期が早期に偏っている、栄養塩の不足による餌の不足状態の可能性。

今後の研究課題

愛知川、野洲川などのオオアユは何処で産卵するのか、早期のヒウオの漁獲の長期的な影響（大型魚の選択捕獲）、温暖化の中でコアユはなぜ産卵期が早期化するのか、琵琶湖へ適当な栄養塩の供給をどうするか、早期遡上魚の長期的な捕獲の影響は出ていないのか、産卵河川の安全分散は出来ないか、等いろいろな問題、課題があります。琵琶湖の漁獲量はアユ漁が最大です。アユ漁その他の漁業復活活性化を希望致します。

第二部

午後の部、最初に午前活動発表頂いた、三姉妹、ぽぽっぽくらぶの方々が各地で環境活動発表時に、ダンス及び歌のパフォーマンスをしておられますので今日も同様にお願ひしました。



一瀬 論氏

「びわ湖のプランクトンの今」

私は南郷の近くに住んでいます。39年間プランクトンの研究をしています。琵琶湖のプランクトンは大きく様変わりしてきました。植物プランクトンを動物プランクトンが食べ、動物プランクトンを貝や小さな魚が食べ、小さな魚を大きな魚が食べ生き物連鎖となっています。琵琶湖での調査は北湖東部、西部、中部琵琶湖大橋部、南湖中央部、瀬田川で実施。瀬田川は毎週日曜日に実施しています。琵琶湖の漁獲量の減少は琵琶湖の植物プランクトンの減少と相関している。水質汚濁対策だけでは生態系は回復しなく、総合的視点から在来魚介類の減少要因の解明が必要。2017年頃より、琵琶湖での外来植物プランクトン（ミラクステリアスハーデイ）の発生により比較的大きくミジンコ等の動物プランクトンの餌にならない。植物連鎖の底辺を支える植物プランクトンのバランスの乱れにより、琵琶湖の生態系に悪影響を及ぼす恐れがあると警戒を強めている。

ミラクステリアスハーデイとは分類、緑藻類、ホシミドロ目、ツツミモ科、ミクラステリアス属。

平面的で勲章などに似た形をしており、2つの半細胞から構成され、中央部に深い切れ込みがある。半細胞には3本の腕状突起に分かれ、さらに2股に分かれる。合計1細胞に12本の突起がある。生息地、オーストラリア（ニューサウスウェールズ州・タスマニア州）、日本各地琵琶湖を含め報告例がない。琵琶湖からは2011年11月から報告がある。カビ臭生成プランクトンの増加は平成28年春先から浄水場に取り上げている琵琶湖水の水温が、過去10年間の平均より高く、特に水温上昇期（4〜7月）には、過去10年の最高レベルを推移するなど、藍藻のオシラトリア等が増殖しやすい条件が整ったことが、主要因ではないかと推察している。

琵琶湖沿岸生態系が異常？ 水草の異常繁茂、農業排水の流入、外来生物の侵入と繁殖、湖底の泥質化（砂地の減少）琵琶湖の水質保全と今後の課題。暮らして湖の関わりを再生していくために、水源地を守る（飲料水・透明で窒素やリンの少ない湖）

◆ 水産資源をまもる（豊かな湖づくり、豊富な漁獲量、固有種回復水質保全と在来魚介類の賑わい復活は湖岸帯の保全再生、湖底の耕耘砂地化、住民による里湖づくり琵琶湖における市民協働による水辺空間修

復への新たな取り組み。市民と生産者（漁業従事者）が一体となったコミュニティ活性化と水辺地域のアミニティを考える。琵琶湖の湖岸帯を遠浅にして、湖岸帯の活性化により、湖底の耕耘による二枚貝在来魚復活を希望致します。有難うございました。

山口 恵氏

「水の浄化剤としての貝殻」

三重県鳥羽市で牡蠣殻を加工固形物化「ケアシエル」によるアサリ養殖事業活用について講演頂きました。現在発売されているアサリはほとんどが中国産で、日本では生まれてから長い期間が産地と記載されています。中国で獲って熊本等で養殖された場合は熊本産となります。鳥羽市は、以前より牡蠣養殖が盛んで、牡蠣殻は沢山発生します。牡蠣殻は鳥羽市では一般家庭ゴミとしての扱いとなり処分になり、市等との要請により粉碎、カルシウム、ミネラル成分が多く、田畑への活用により土壌が柔らかくなり有効でした。牡蠣殻粉末に水酸化マグネシウムを入れると固まり、成分溶出と研究機関に依頼、効果確認を得て製品化「ケアシエル」発売をした。ケアシエルはカルシウム、ミネラルが豊富な自然栄養剤でアサリ養殖事業に最適で、



牡蠣粉末で海中のマグネシウムからできており、地球に優しく、浄化作用があります。現在はアサリ養殖事業に使用中で、淡水での使用は無く、今回瀬田川漁協にてシジミ養殖に実験使用を開始検討となる。

その他9月、10月の活動

9月21日(木)

市民会議 講師依頼

行先 彦根県水産試験場

参加者 伊藤、美濃部

藤岡康弘氏に市民会議講師依頼

9月24日(日)

びわ湖ルールキッズ事業表彰式参列

場所 コラボしが21

6月10日～8月31日間びわこル

ールキッズ事業 釣り成果表彰式に

参列しました。リバプレ隊は協力団

体として参列 10名団体が受賞さ

れました。最多釣りは3069匹

でした。

10月21日(土)

MS&ADインシユアランスグルー

プと共催事業 外来魚つり大会

天候不良予報に付き中止致しました。

10月22日(日)

瀬田川一斉清掃

河川事務所主催 瀬田川一斉清掃

台風22号接近により中止となりま

した。

河川清掃活動

瀬田川清掃

9月10日(日)

参加者 12名

回収ゴミ 19袋、缶1袋

10月10日(火)

参加者 9名

回収ゴミ 20袋、缶1袋

高橋川清掃

9月25日(金)

参加者 8名

回収ゴミ 36袋、缶瓶各1袋

10月25日(水)

参加者 9名

回収ゴミ 16袋、不燃ゴミ1袋

【理事会報告】

9月18日(月曜日) WS

出席者 伊藤、中谷、朝田、美濃部

井上、山元、柏谷

議事

先月の活動報告

*高橋川清掃 8月25日

壁面雑木清掃作業は昨年大津土木

事務所で実施済みが雑木が茂つて

きたが危険に付き作業は行わず、

土木事務所に要請。

*瀬田川清掃 9月10日

今後の予定

*外来魚釣り隊大会 10月21日

天候不良に付き中止決定

*瀬田川一斉清掃 10月22日台風

接近に付き中止決定

*市民会議 記事参照

*湖上セミナー 11月12日 実施

*河川事務所研修 説明会&交流会

11月21日 実施

その他報告事項

*助成金情報

使用状況及び今後の使用予定報告

*イオン黄色レシートキャンペーン

29年度上期還元金22000円有り

10月15日(日)

WS

出席者 伊藤、中谷、朝田、美濃部、

山元、柏谷

議事

先月の活動報告

*高橋川清掃 9月25日

*瀬田川清掃 10月10日 コムラ

サキシキブ植樹予定は苗の手配が

出来ず今年中止となりました。

*外来魚釣り隊大会 10月21日

天候不良に付き中止決定

*瀬田川一斉清掃 10月22日台風

接近に付き中止決定

*市民会議 記事参照

今後の予定

*湖上セミナー 11月12日 実施

*河川事務所研修 説明会&交流会

11月21日 実施

*子供環境学習会 12月20日

その他の報告事項

*経理報告 山元

承認得る、中間チェックについては幹

事監査役と相談。

*使用プリンターが故障により使用

不能となり、交換の件

*11月2日 河川愛護団体交流会

に参加 針江生水の郷 朝田

お知らせ

11月12日(日)

「第10回記念 湖上セミナー&現

地見学会」 沖島見学会は皆さま方の協

力に80余名参加を得て無事修了致

しました。内容等は次号にて報告い

たします。



お詫び

リバプレ隊だより90号の発行が諸

般事情により遅れました。お詫び申

し上げます。

《編集後記》

1月瀬田川清掃から12月最後のリバ

プレ隊活動に皆さま方のご理解と協

力により種々の活動や事業が出来まし

た。有難うございました。

来年も皆様方にとっても良き年であり

ますように!

リバプレ隊だより編集委員

富岡、伊藤、井上、美濃部